

1. 研究の背景と目的

現代において清冽な湧水を残している都市は多くない。多くの都市で中小河川や用水を埋め立てたり、蓋をして暗渠化したりしてきた。金沢もその一例ではあるが、歴史的文化遗产であり、貴重な財産であることに市民は気づき始めた。そして、後代に美しい金沢を継承しようと用水再生への取り組みが始まった。

以前のようなせせらぎを取り戻し始めた用水、その中でも鞍月用水が流れるせせらぎ通りを対象として、歴史的価値を残しつつ、潤いと賑わいを取り戻すことを目的とする。

2. 対象敷地 - 石川県金沢市 -

2-1. 金沢市の概要

金沢は戦災や震災に遭うことがなく、城下町の風情や歴史的な街並みが残されている。日本で第1号の「歴史都市」として毎年多くの観光客が訪れている。また市内には55本の用水が張り巡るように流れているために「用水のまち」とも呼ばれている。現在の金沢市の中心部には、辰巳用水、鞍月用水、大野庄用水という3つの用水が流れており、いずれも金沢の二大河川のひとつである犀川から取水されており、中心街の景観に潤いを与えている。

2-2. せせらぎ通りの概要

せせらぎ通りは、鞍月用水という疎水に沿った通りで、約60の店舗が建ち並んでいる。賑やかさを感じる中にも、用水の心地よいせせらぎの音が聞こえる癒やしの空間となっている。鞍月用水はせせらぎ通りになくはならない存在となっている。また、せせらぎ通りにはチェーン店がほとんど存在せず、立ち寄ってみたいくなるようなおしゃれなお店が多くひしめきあっている。せせらぎ通りは金沢に住む人達だけでなく、観光スポットの一つとして観光客にも人気の通りである。

2-3. せせらぎ通りと周辺図



図1 せせらぎ通り全体図

3. せせらぎ通りの現状 - パブリックライフ調査

3-1. 調査方法

3-1-A. カウント調査

調査対象は図1に記されているA,B,C地点の3箇所において、通過した歩行者、自転車、自動車をカウントした。調査は異なる季節、日時、天候にて計6日間行った(調査日:2017/5/14,8/2,10/6,8,12/3,4)。調査時間は各5分とした。

3-1-B. 軌跡トレース調査

調査対象を東急スクエア前とし、ビデオ撮影を行い、歩行者、自転車の行動を追跡記録した。調査時間は5分とした。調査日は2017年10月8日(日)午後2時40分開始、天候は晴れ。

3-2. 調査結果

3-2-A. カウント調査

表1 カウント調査結果(12月3,4日)

調査地点		天気:晴れ		気温:14℃		12時		14時		16時		合計	
歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車
42	8	11	28	7	7	42	18	13	148	27	31		
調査地点		天気:雨		気温:11℃		12時		14時		16時		合計	
歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車
13	8	10	20	2	13	16	1	11	32	12	34		
調査地点		天気:晴れ		気温:14℃		12時		14時		16時		合計	
歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車
20	22	30	28	12	20	42	7	27	110	42	47		
調査地点		天気:雨		気温:11℃		12時		14時		16時		合計	
歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車
21	12	28	21	2	21	18	1	29	81	15	18		
調査地点		天気:晴れ		気温:14℃		12時		14時		16時		合計	
歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車
13	8	18	9	11	11	2	7	42	13	28			
調査地点		天気:雨		気温:10℃		12時		14時		16時		合計	
歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車	歩行者	自転車
9	14	9	1	0	9	2	12	11	18	28			

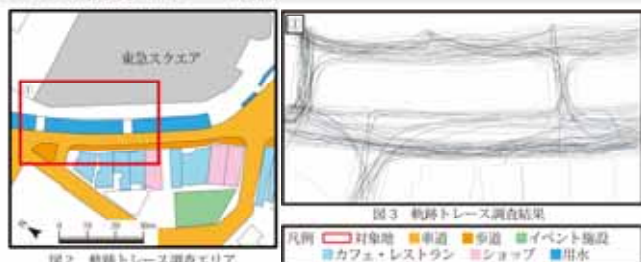
表1に示す12月の調査結果を分析し、以下の結論を得た。

- ・晴天時と雨天時で比較すると、自動車の通行量には変化が少なかった(調査地A,B,Cの合計で2%の差)が、歩行者と自転車については晴天時の通行が平均で歩行者が42%、自転車が34%多かった。
- ・店が多く建ち並ぶA,B地点の歩行者交通量は多いが、C地点まで行くと住宅が増え、極端に量が減っていた。

また、12月を含め、全調査・観察の結果として得られたことを定性的に記す。

- ・平日と休日については多くの観光客が訪れる休日に歩行者と自転車に大きな差が出ていた。
- ・どの季節でも休日は観光客の通行が多く見られた。
- ・午前中は店舗がまだ開店していないために輸送業者の人やトラックが目立っていた。
- ・多くの学生が見られたため、通学路としても利用されている。

3-2-B. 軌跡トレース調査



通行者は合計 144 人で歩道のみならず車道にも多くの通行が確認された。対象地は北からの一方通行ではあるが自動車の交通はある。しかし、100 人を越す人が歩道からはみ出て歩いている。歩道のみを歩いている人は 27 人と全体のわずか 19%であった。これは用水を眺めるため、用水にかかる橋を渡るため、東急スクエアから駐車場に行くため、歩道が狭いためなど様々な理由が考えられる。

観察の結果、北側から歩いてくる人は商店側、南側から歩いてくる人は東急スクエア側の歩行が多かった。これは観光客は車道側から用水を眺めながら歩いており、地元の人たちは普段から見慣れているために安全できれいに整備されている東急スクエア側を通行していることが原因だと考えられる。

6. 計画イメージ

■せせらぎテラス



現状では、用水との間に距離があるため、せせらぎを間近で感じられる親水空間を創出した。

■ポケットパーク



金沢に広がる歴史的な雰囲気を感じられるポケットパーク。観光途中のちょっとした休憩に立ち寄れるせせらぎ通りの新たな顔。

7. 総括

この提案でせせらぎ通りに新たな魅力を創出することにより、より多くの人に金沢の歴史を発信し、賑わいの空間を生み出す。

4. 問題提起

1. 約 500m 続いているせせらぎ通りは観光スポットとなっているが、休憩や用水を眺めることができる場所がない。
2. A 地点の東急スクエア前は用水が広く、他の場所より水のせせらぎを感じやすいはずだが、自動車の交通や植栽によって、近くで感じるできない。
3. A 地点から B 地点では多くの交通がある。もし C 地点に魅力的なスポットや休憩スポットがあれば、せせらぎ通りとその周辺の回遊性の創出につながるのではないかと。

5. 提案

- 新たに 3 箇所の拠点を創出 -

せせらぎ通りを行き交う人が利用できる空間、「せせらぎを間近に感じられる親水空間」、「観光途中のちょっとした休憩や飲食が可能なポケットパーク」、「せせらぎ通りでのイベントや店舗情報、歴史を知ることができるカフェ兼観光案内所」の 3 つを調査地 A, B, C の周辺に設ける。歴史都市である金沢らしい雰囲気を感じ、新たな観光スポットとして発信する。

■カフェ兼観光案内所①



■カフェ兼観光案内所②



観光ルートに面する敷地に金沢の歴史的意匠を表現したデザインである施設を設ける。それにより観光客がせせらぎ通りの価値を知り、用水の先へ導かれる。